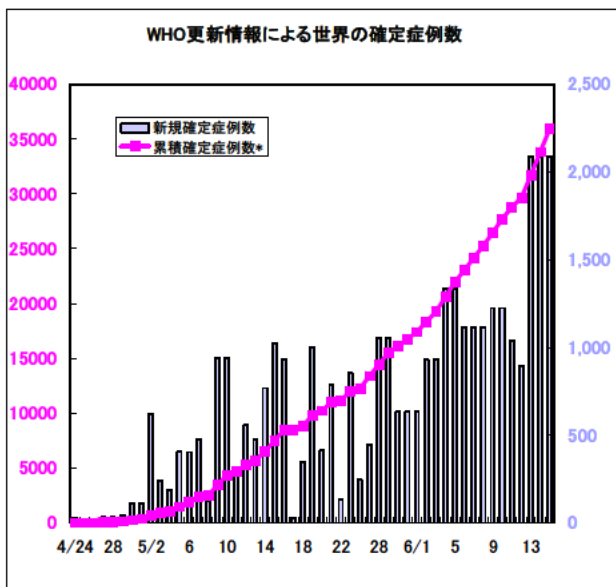


新型インフルエンザ A(H1N1)について

「世界と日本の流行状況」

新型インフルエンザ A (H1N1) は、2009 年 4 月、米国やメキシコにおける患者発生報告を端緒に世界各国で報告されており、6 月 15 日現在、76 カ国 35,928 人(死者 8 カ国 163 人)の発生報告があります。一方、我が国では、海外における流行の拡大を受けて水際対策を強化し、5 月 8 日には、成田空港における検疫によりカナダから帰国した高校生の感染が発見されましたが、その後、検疫をすり抜けたと思われる 2 次感染例が神戸市、大阪府で相次いで報告され、6 月 15 日現在、23 都府県で 595 人の患者が確認されています。



メキシコでの患者の年齢分布は5～29歳までの若年層が半数以上を占め、60歳以上は2%と少数であること、米国でも、10～18歳が40%を占め、50歳以上は5%に止まっていることが報告されており、従来の季節性インフルエンザとの相違点となっています。なお、これにはタミフルなどの抗インフルエンザ

薬が有効であり、米国ではほとんどの患者が季節性インフルエンザと同様、軽症で推移しました。米国と比較するとメキシコでは多くの死亡者が報告されていますが、この原因としては治療開始の遅れが疑われています*1。

我が国の大阪府内の高校における確定症例64例の調査では、38℃以上の発熱83%、咳81%、他に悪寒、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、頭痛、下痢、腹痛、嘔吐等、季節性インフルエンザに類似した臨床像を示しており、重篤な症例はありませんでした*2。



日本の流行地図：国立感染症情報センターHPより

この新型 A (H1N1) ウイルスの抗原性（生体防御反応を引き起こす力）は 1930 年代の古典的な豚型インフルエンザ H1N1 に類似し、遺伝子的にも豚インフルエンザの特徴を残していると言われてしています。“この遺伝子がさらに変異し人への感染力が増す可能性がある”と指摘する専門家もいます。また、海外では基礎疾患のない若年層で重症例の報告があることなど病原性（感染症を起こす性質・能力のこと）についてはまだまだ不明な点が残されています。

「今後の動向は？」

我が国では、夏場におけるインフルエンザ大流行の報告はなく、今後しばらく患者数は減少していくと考えられますが、季節性インフルエンザの流行期を迎える秋以降は、新型インフルエンザについても、流行の第二波に対する注意が必要です。南半球ではこれから季節性インフルエンザ流行期を迎えるため、オーストラリアや南米諸国における今後の発生動向に注意し、そこから得られる情報を我が国の対策に活かすことが必要です。

過去の「スペインかぜ」流行時、1918年春の第一波では症状も軽く死者も少数でしたが、第二波となる秋からの流行は規模も大きくなり、多数の死者を出しました。第二波に対して準備をしておくことが重要です。

「個人での対策」

新型インフルエンザワクチンの製造が開始されますが、糖尿病などの持病がある方、妊婦さんなど、罹患による重症化リスクが高い方は、主治医とよく相談の上、予防接種を受けてください。

通常インフルエンザに対する予防方法が、新型インフルエンザにも効果的です。発生地域などに関する情報に注意するとともに、可能な限り人混みを避け、手洗いを心がけましょう。流行時のために2週間程度の食料や日用品の備蓄があると良いでしょう。

これらの情報は、三重県感染症情報センターホームページ (<http://www.kenkou.pref.mie.jp/>) でご覧いただくことができますので、常に情報をチェックしておきましょう。

発熱、咳などの症状が現れた場合、まず、地域の新型インフルエンザに関する相談窓口（保健所などの発熱相談センター）に相談

しましょう。発熱相談センターの指示により医療機関を受診するときは、事前に医療機関に電話で連絡し、咳エチケットに留意してマスクをかけた上で、受診しましょう。

「三重県保健環境研究所の役割」

診断した医師が強く新型インフルエンザを疑った場合、医師はその旨を保健所に連絡します。保健所と医師が協議し、確認検査が必要と判断されると、検体が保健環境研究所に搬入され、PCR（polymerase chain reaction、ポリメラーゼ連鎖反応）という検査法を用いて、確認検査を行います。三重県は、この検査結果を基に新型インフルエンザの患者発生を確定することとなります。また、当研究所は、三重県における感染症情報センターの運用管理も行っており、前述のホームページで「新型インフルエンザ」の国内外の関連情報を可能な限り迅速に提供するとともに、その更新情報等をEメールにより、希望のある医療機関等に提供しています。さらに、新型インフルエンザが流行した場合も、研究所の基幹業務である試験検査、公衆衛生情報の収集・解析・提供等への影響を最小限に抑えることを目的として、研究所の事業継続計画書（Business Continuity Plan：BCP）を策定し万全を期しています。

*1：新型インフルエンザA(H1N1)ウイルス感染を原因とする疾患の深刻度におけるWHOの技術的専門家会議（WHO、2009年5月6日）

*2：新型インフルエンザの大阪における臨床像（国立感染症情報センター、2009年5月21日）

- 編集委員会から -

みえ保環研ニュースについて、ご意見・ご質問等がございましたら下記までお寄せください。

三重県保健環境研究所

〒512-1211 三重県四日市市桜町3684 - 11 TEL 059-329-3800 FAX 059-329-3004

Eメールアドレス hokan@pref.mie.jp ホームページ <http://www.hokan.pref.mie.jp/>

三重県感染症情報センターホームページ <http://www.kenkou.pref.mie.jp/>